関西四極会報

2018.12.1

第23号

平成31年度総会のお知らせ！

日　時　平成31年4月21日（日）会　場　大阪ガーデンパレス
受　付　11：00　開　会　12：00　〒532－0004 大阪市淀川区西宮原1丁目3番35号 TEL（06）6396-6211

〈発行責任者〉大石　哲史　〈電話番号〉06-6349-9120
〈編集長〉辻　次郎　〈ファックス〉06-6349-9121
〈発行所〉〒566－0045 摂津市南別府町8-40 ㈱カトー精工内
http://www.kansai-shiwasukai.club/

来年も、そして来年こそ逢おう

会長　大石　哲史（大学二十二回）

2016年に会長の重職を仰せつかり早いもので3年を迎えようとしています。就任来これまでの総会での私の冒頭挨拶を振り返りますと、2017年は「1年振りの再会、来年また会えるかどうかはわからないので限りある時間をなるべく長くご歓談ください……」。そして、2年経過した2018年では「元気でないと総会参加もままならずある意味仲間同士の生存確認の場かも知れません、それだけに歓談の時間を優先……」と軽いジョークの気持ちで申した矢先の去る6月25日に田代友二郎先輩（大学11回）急逝の訃報に接しました。散策会「四極の風の会」のリーダーとして約15年間にわたり会の運営に尽くしていただき、とりわけ全国の神社仏閣の歴史への造詣が深く四極会報誌にも数多く寄稿されたことは皆さんご承知のことでしょう。私事にて恐縮ですが以前に田代先輩のお自宅を訪ねた帰りにお庭に立派に実をつけたサクランボをわざわざ千切って来られ熊本訛りで「これ持って行かんかァ」とお土産に頂いたことを懐かしく思い出します。そういえばサクランボの花言葉は「善良な教育」、まさに先輩の豊かな教養を想起させるものでした。実は、昨年6月の手術後は無事快復し散策会にも参加され元気な姿を見せておられました。それだけに突然の死はこの上なく残念な思いとともに会員一同、心より哀悼の意を表したいと思います。

ところでかつての総会で、〝Fret来夢〟のリードのもと合唱したあの歌小椋 佳 作詞「惜春会（せきしゅんかい）」を皆さんご記憶でしょうか？　左記にその歌詞を記します。

惜春会（せきしゅんかい）

兎にも角にも健やかで　また逢えたこと悦ぼう
年に一度の惜春会　特に話題は無かろうと
友の訃報がまた一つ　風に飛ぶ花散る桜
ふと良寛を　浮かべたり
かつてそれぞれ　ライバルと　やや意識して競い合い
今や和みの　惜春会　その場に「ちゃん」づけの　名が似合う
老い衰えに　もうと言い　残る命に　まだと言い
互いの過去を　種にして　或いは茶化し　また讃え
幸い明日もありそうな　また一年（ひととせ）よ無事であれ
花を見送る　惜春会　友にさらなる実りあれ
蝸牛（かたつむり）　登らば登れ　富士の山
悠々と　祭り創りの　日々であれ　日々であれ

さて、私たち関西四極会も皆様のご尽力のお陰で僅かながらもニューフェイスまた久方振りの方々の参加が実現しつつあります。これまでの旧交を温めるだけでなく新しい出会いとなる場所、それが同窓会であり四極会だと考えます。長い人生そして長い航海、「四極丸」に世代を超えた人たちが同じ船に乗りそれぞれの旅を作り上げている訳です。だからこそこれまで何となく参加をためらっていた人達も是非気軽にご参加いただくとこの上ない喜びです。

因みに、50代においては40代の時とはまた違って「残り時間を意識する世代」かも知れません。よく「10年ひと昔」と言いますが50代となると卒業して約30年。「10年ひと昔」×3で30年なんてすごい年月が経ってしまったかのようにも思えます。そして30年という月日は大抵の苦い記憶が時効となるものです。学生時代は大した思い出などなかったと思われる人もまずは総会に足を運んでみて下さい。

同じ場所で同じ空気を吸って過ごしたかけがえのない青春時代。同じ世代で、また世代を超えて縦横のつながりが新たに生まれたり、復活したり、もう一度「縁」をつなぐそんな場。参加して良かった！　会えて良かった！　分大で良かった！　と言っていただける同窓会にしたいものです。

私たちが日頃何気なく行っているコミュニケーション、実は脳の多くの領域を使う複雑な作業だそうです。一方、最近はメールやSNSでのやりとりが増えていますが実は脳を活性化させるためには実際に顔を合わせることが重要と言われます。更に人と交流する際には「腹を割って話す」と、より一層脳が活性化する効果があるとのことです。「腹を割る」ということは、自己開示をし相手に対する信頼感を示すということでもあります。つまり「腹を割って話す」と自分の脳が活性化し更に相手からも信頼感を得てお互いに脳を活性化しあえるという効果がある訳です。

皆さん、是非、来年もそして来年こそは総会でお逢いしましょう。

最後に

母校１００周年は記念すべき周年の中でも最大のものです。皆様には既に四極会本部より記念募金の趣意書が届いていると存じます。酸いか甘いかは別として、青春時代の思い出と教えに思いをいたし母校支援の為にも皆様のご協力を伏してお願いするものです。

伏見の名水と酒蔵を訪ねて

鍵本　明（大学十七回）

とりあえず、伏見の名水に会えると聞いていた、近鉄桃山御陵前駅で下車しました。

改札口を出ると、案に相違づ、すぐに「伏見名水めぐり」の案内板が目に入ってきた。

10ヶ所の名水の場所が地図にプロットされたものです。まずは、一番近い御香水のある御香宮神社に行こうと駅を出たとたんに、『黒田節」誕生の地』という看板に我が意を得たりの気持ち。やはり銘酒には名水が欠かせない？読んでみると、黒田節♪酒は飲め飲め～の歌詞の元になった逸話が書かれていました。

それでは、最初の名水を求めて御香宮神社の表門から、「御香水」のある境内へ足を進めます。この名水は、平安時代に涌き出し、良い香りが四方に漂い、この水を飲むと病がたちまち治ったと伝承もあります。明治時代に一度枯れましたが、昭和57年に復元し、「名水百選」にも選ばれています。今年6月の地震で少し濁っていましたが、クセのない柔らかな口あたりの水に感じられました。又この水で水占いもできると聞き、社務所で購入し占ってみると「中吉」「願事・困難を乗り越え最後は叶う」という事でまあまあでした。

次の名水は、鳥せい本店脇にあって「清酒神聖」にも使われている「白菊水」です。ここでは、多くの人が列をなしていました。列のはじめの人は、2リッターのペットボトル1ダースに名水を汲んでいましたので、聞いてみると店で出すコーヒーに使っているとのこと、さすが関西人ですね、感心します。それでも何とか途切れた時を見計らって一口ゲット。「御香水」と同じ水脈なので、やはり柔らかな水でした。

3番目は、昼時にあわせて黄桜記念館で名水と酒蔵の両方を堪能します。

伏見はかつて「伏水」と称され、地下水が湧水となり良質な水に恵まれた土地です。ここの名水は、ずばり「伏水」と名前のついた名水で、口当たりの柔らかい中軟水でした。ランチは黄桜カッパカントリーの「龍馬御膳」と酸味と甘味のバランスのよい味わいの「熱燗本造り黄桜」2本にすっかり、いい気分になってしまいました。

次も酒蔵見学と名水を味わ

える月桂冠大倉記念館です。この記念館の斜め前に、〝高山右近ゆかりのイエズス会「伏見教会」への小道〟が月桂冠（株）の敷地内にあるとのことで、高槻市民としては見逃すわけにはいきません。ただの小道ですが、伏見における右近の足跡を伝えるものと聞くと、４００年の時を越えて感慨深いものがあります。

さて本題の名水は「さかみづ」ですが「栄え水」ともいわれ古くは酒の異名でもあったようです。寛永年間から湧き出て絶えることがなく、今も隣りの酒蔵で使われています。

今日、５つ目の名水は長建寺に湧く「閼伽水（あかすい）」です。「閼伽水」とは、仏に供える水のことをさし、この寺に湧く井戸は酒どころ伏見に湧き出る良質の地下水と同じ水脈です、と案内板にありました。また、境内にあるマリア灯籠の説明には「江戸時代幕府によるキリシタン禁制時代に造られた石燈籠で、柳町の御所にも出入り許可されていたお茶屋紅屋の隠れ座敷の庭に置かれていました。燈籠の下部には、地蔵にも見えるような形で聖母マリアを刻んでおり、当時のキリシタンたちは隠れて祈りを捧げていたのでしょう。今日では貴重なものです。」とありました。ここにも高山右近の痕跡が!!

まだ、６ヶ所の名水が残りましたが、酒が恋しい時間になりましたので、次会にということにして、３つ目の高槻の酒蔵に直行と相成りました。

絵画鑑賞の勧め

細田　泰嗣（経専二十六回）

私は61才のとき、タマタマ大阪市立美術館／二科展の招待券を頂き足を運んだのがキッカケとなり、70才で絵画教室に入り、油絵を描くようになりました。今は仲間たちと春と秋に絵画展を開催しております。

80代に入り体力や気力が減退してくると、絵を描くよりも美術館へ出かけることを楽しみにしております。

美術館には非日常の空間があり、心が癒されて心身のリフレッシュになります。

絵画、彫刻、工芸…など　どれでも趣味の一つに加えて人生の枠を広げてみてください。

（昭和25年卒　89歳・H30．7月　記）

作品一覧

ハワイ島の夜明け

幸せ一杯

仲良し

絵画展会場にて

オランダ／キンデルダイク

絵画のホームページ
http://taishi0616.server-shared.com/

幻想

新．ヴィーナスの誕生

クォーターテニス
究極の高齢者スポーツ

セルフジャッジ（自己審判）制度の採用を！

恩賀幹雄（大学三回）
（元）西宮市クォーターテニス協会理事

☆背景：チャレンジ制度☆

プロテニスなど人気スポーツゲームでは、公平・正確な審判を実現するため近年「チャレンジ」制度が導入されている。この制度では、選手がラインズマンや審判のイン、アウトの判定に異議がある場合、多数のカメラアングルから撮影し数秒で再現する映像検証をリクエストできる。

テニスの「チャレンジ」制度は２００６年以降導入され，グランドスラム４大大会の中、全仏（クレーコート）を除く全米、全豪およびウィンブルドン（グラースコート）でのセンターアリーナ・サブアリーナで行う主要な試合で適用される。

☆クォーターテニスの試合の進行・管理☆

「クォーターテニス」誕生から約34年経過するが、その管理者および選手は、試合の円滑進行・管理に最適な「審判制度」を決めかねている。現在２種類の審判制度があり、

その（１）は休憩・待機中の１選手が行う「別審判１名」

その（２）はプレー中のダブルス２選手がチームで行う「セルフジャッチ・自己審判２名」である。

「クォーターテニス」は、観戦料を一切取らない地方行政主導の高齢者健康長寿を目的とするゲームであるから、テニスの「チャレンジ」制度に代わる「手間暇と費用」が掛からないが、公平且つ円滑進行を可能にすると期待される「自己審判２名」制度を検証したい。

☆「別審判」と「自己審判」の規則・マナー順守☆

規則・マナー順守に関する問題点の実例を記述すれば、

1）「自己審判」のゲームは、サーバーの「プレー」または「ラブオール」のコールで始まるが、各ポイントのコールは「ゼロ、ワン、ツー、スリー」を使用する。ゼロの代わりに「ラブ」をコールすることは好ましくない。何故ならば、クォーターテニスはテニスから考案されたもので、そのテニスのポイントのコールは、例えば「ラブ・フィフティーン」はあるが、「ラブ・ワン」とは言わない。

2）リターン後、ラリーで打球が相手コートのラインを外れた場合、審判は打球接地を確認し「アウト」をコールする。接地前の「アウト」コールをしてはならないが、自チームのパートナーへの注意を促す「ウォッチ」などは認められる。「自己審判」の２名が相反するコールをした場合は、先にコールした判定が優先する。

3）審判からボール接地点が見え難い場合、自チームのパートナーに尋ねるか、レシーブ側近辺の観客に尋ねることができるが、その観客は「アウト」は手を上げて、「イン」は手を下げて知らせることができる。ゼスチャーを参考にして判定するが、観客の発声で判定が覆ることはない。

☆「セルフジャッジ・自己審２名」は優れたシステム☆

「クォーターテニス」はダブルスのみで公式戦は殆どなく西宮

①「効率」の観点：「兼審」か「別審」かの比較

「自己審判２名」では、ネットを挟み相対する選手４名（サーブ側２名＋レシーブ側２名）のレシーブ側２名が審判を兼務する「兼審」である。試合中ボールがネットを越える度に、ジャッジ側が入れ替わる「効率が良い」システムである。定員 24 名のところ、参加実数 18 名の例を見ると、プレー延べ時間は、1 ゲーム@４名×３コート＝ 12 名、6 ゲーム延べ人数 72 名×@５分＝ 360 分である。

「別審判１名」では、休憩中の～ 12 名（この例では６名）の選手の中から３コート計３名の審判を割り当てる。1 ゲーム@３名× 6 ゲーム＝延べ 18 名。延べ時間は 18 名@５分＝ 90 分を要する。「別審」の追加時間と「兼審」の基本プレー時間の延べ時間比率は：90 分÷ 360 分＝ 0.25、即ち「別審判１名」では 25% 余分な手間暇が掛かる。

②「判定の信頼度」の観点：「1 名審」か「2 名審」かの比較

「別審判１名」では、24 名の選手の中の 12 名が《高熟錬》、他の 12 名が《低熟練》である時、ジャッジの《高熟練》確率は　12 ÷ 24=0.5　(50%)

他方、「自己審２名」では、４名の選手の中の２名が《高熟錬》、他の２名が《低熟練》である時、ジャッジの《高熟練》確率は　10 ÷ 12=0.833　(83.33%)

その組み合せの４名をジャッジ側２名組と交替ジャッジ側２名組で合計 12 名（２名× 6 組）の中の５組 10 名《高熟練》が支配する時間帯を検証しよう。

30 分単位で示すと、その合計《高熟練》＋《低熟練》支配時間は 30 分で、その中で《高熟練》支配時間は 25 分を占め、その確率は 25 分÷ 30 分 =0.833　(83.33%) であり、「別審１名」の 50%と比較して遥かに高い。

2名組ジャッジ側		支配時間	ジャッジ
No.1《高》＋No.2	《高》	2.5分	《高》
No.1《高》＋No.3	《低》	2.5分	《高》
No.1《高》＋No.4	《低》	2.5分	《高》
No.2《高》＋No.3	《低》	2.5分	《高》
No.2《高》＋No.4	《低》	2.5分	《高》
No.3《低》＋No.4	《低》	2.5分	《低》
ジャッジ	《高》	12.5分	《低》2.5分

2名組交替ジャッジ側		支配時間	ジャッジ
No.3《低》＋No.4	《低》	2.5分	《低》
No.2《高》＋No.4	《低》	2.5分	《高》
No.2《高》＋No.3	《低》	2.5分	《高》
No.1《高》＋No.4	《低》	2.5分	《高》
No.1《高》＋No.3	《低》	2.5分	《高》
No.1《高》＋No.2	《高》	2.5分	《高》
ジャッジ：	《高》	12.5分	《低》2.5分

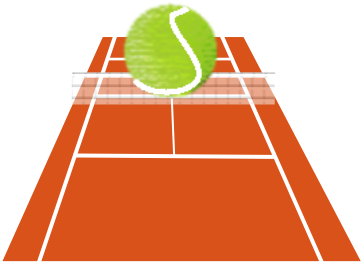
市内6体育館などで行われる一般開放の練習試合では、3面のコートで12名が約5分間プレーの2交代制である。

①「効率」の観点、②「判定の信頼度」の観点で検証の結果「セルフジャッジ・自己審2名」は優れたシステムであることが分かる。

☆おわりに☆

「クォーターテニス」の練習試合では競技規則・マナーの順守と共に、「セルフジャッジ・自己審判2名」制度の採用を西宮市市長事務局に強く要請したい。加藤皓以名誉会長のご要請により、「やってはいけないウォーキング」青柳幸利著2016年発刊を再度ご紹介いたします。

（完）（2018・10・20）



随想

磯歯津と四極山

（しはつとしはつやま）

利光　征四郎（大学十一回）

一、言葉としての磯歯津、四極山

―以下は参考文献①よりの引用―

「シハツは〝磯果つ〟の意味で、浜の端の河口・岬などを指す」ことから、住吉大社の南、細江辺りをそう呼び、その地をスタートし、ほぼ真っ直ぐ東に喜連辺りまで通じる道を「磯歯津道」と呼んだとされている（日本書紀）。

一方、四極山については、本居宣長著「玉勝間」によれば次の通りである。―四極山と呉坂（くれさか）の所在―

「しはつ山は、今の世、住吉より東の方、喜連という所へゆく道の間に岡山のひきき坂あり、是なり。雄略記に、十四年（470年）正月、呉の国人の参れるところに、（中略）住吉津に泊つ。是の月、呉の客の道として磯歯津路を通す。呉坂と名づく」とある。

以上から、「しはつ」は地勢からくる呼び方で、古代の大阪湾に面した住吉の浜（現大阪市住之江区）が砂州になり突き出た場所をそのように呼んだ、ということが出来る。又、そのような場所は津（港）として重要な位置となり、そこから道が通じるのは自然の成り行きとして容易に想定される。「しはつ」に通じる道を「磯歯津道」と呼んだことから、後世の学者がこの道沿いに有る山（坂といっている）を「しはつ山」に比定し、万葉集に詠まれた高市連黒人（たけちのむらじくろひと）の歌二首

四極山うち越え見れば笠縫の
島漕ぎ隠る棚無し小舟

千沼廻より雨そ降り来る四極の海人網手乾したり濡れも敢えむかも

の「しはつ」を説明している。

―続いて四極山などの所在地に関する私見―

まず、「四極山うち越え見れば……」の歌の解釈は、四極山や笠縫の島の場所をどこにするかで変わってくるので、ここでは四極山が住吉の近くにあり、笠縫の島が現大阪市東成区深江の辺りにあったという説を定説とみなしこれに従うことにする。

―歌の解釈―

しはつ道にある四極山を越えてはるか向こうを眺めれば
笠縫の島陰に頼りなげな小舟が漕ぎ隠れていくところだ

住吉から喜連に通じる磯歯津道は、おそらく現在の長居公園通りに近いと思われるが、この通りの周辺は現在住宅が密集しており坂もなし、山もなしで呉坂や四極山がどこなのか見当もつかない。手探り状態の中で山の所在地を考えるヒントとしては次の二つがある。

一つは長居公園の存在である。長居公園は面積六十六ヘクタールの市営大総合運動公園で二つの陸上競技場、球技場、テニスコートなどのスポーツ施設の他に植物園、博物館も備える―公園は東住吉区にあり住吉大社の南を経て喜連辺りを通る

長居公園通りの北側に面している―。昭和時代の初めに公園が計画され同十九年に開園。同二十三年に市立競馬場、同二十五年に市立競輪場を園内に開場したが同三十年代にいずれも閉場となり、その後整備が進み今の姿になっている。全体の地形は割に平坦で植物園の中には池があり、木々に覆われた小山もあるが、しかしこれらは園の造形物。そして残念ながら、過去に競馬場と競輪場を造営の折に地ならしなどで山があったとしても削られてその痕跡が消滅したと考えられる。従って造園前の地形は確認の仕様がないが、現在公園の一隅に寺院（臨南寺）があり建立三百五十年余になる古刹である。当寺院の辺りを呉坂の所在地に比定する説がある。―「東住吉区史復刻版（昭和六十二年五月刊）」による―　また、公園の北方に山坂（町名）という地名があり坂を連想させるところからか、本居宣長は町内の山阪神社付近を「四極山」に比定している。公園の西に面してあびこ筋が通るが臨南寺の辺りでは東に向かってゆるい上り坂になっている。長居公園付近は、宣長が「ひき」と表現した山とも坂ともつかない「四極山」の有力候補地の一つであろう。

　二つは古代よりの地形。現東住吉区辺りの地形については、江戸・元禄期の大和川付替え以前には古代より南（現堺市）から北（現大阪市平野区・東住吉区）に向かって複数の川の流れがあり川筋には丘陵や湿地が広がっていた。付替え後の新大和川によりこれらの川が分断され水脈を絶たれて以後約三百余年を経過して川筋はすっかり変貌しているが、今尚、付近には今川、駒川の流れが残っている。喜連の辺りは、住吉神社のある上町台地の地層とは異なり水はけの悪い湿地帯だが、川の流れが作った河岸丘陵の一つを越えるのに坂を作り「四極山」と呼んだかもしれない。場所的には現東住吉区を流れる今川・駒川沿いにある鷹合・湯里・喜連西の辺りか。

　また、「笠縫の島」の比定については現東成区深江の辺り説で決まりの感が強い。

　万葉の時代には河内地方は河内湾と呼ばれた湖が大きく入りこみ、深江の辺りには島の名残を示す地名が確認できるという。笠縫の傘は菅笠（すげがさ）のことで、傘を作る人々が材料の菅を求めて大和地方から深江の方に移住してきたとされている。長居・喜連から湾内を遠望できたかどうか、距離的には喜連、長居公園付近ともに島は見えても小舟の見極めには少し無理があるかもしれない。詠み人が今眺めやる風景に既に見た印象深い景色を重ねて表現したのかも。

　尚、先にあげた万葉歌の二句目を解釈した別の文章があるので紹介する。ここでは、

「四極一を津（みなと）の地名と捉えている。―以下は参考文献②の引用―

「その（万葉集のこと）巻六に

　血沼廻（ちぬみ）より雨そ降り来る四極（しはつ・地名）の白水郎（あま）網手綱乾せり濡れあへむかも

　血沼廻の「み」は浦（ウラ・ウラミ）のことである。歌意は「ちぬの海の岸べから雨が降ってきたぞ、四極の浜で漁師が網や手綱を乾しているのをみたが、気の毒にあれが濡れてしまうだろうなあ」ということで、他人の労働へのいたわりがよくあらわれている。四極というのは、古代の津の一つらしい。磯歯津とも書く。今は陸地になっているが、住吉区のどこかに存在した浜のことである。

　この四極のあたりには、漁師が多く住んでいた。四極だけでなく、淀川の河口にも大阪湾一円にもかれらがたくさん住んでいて、古代のことばでは「あま」とよばれていた。漢字としては、海人とか白水郎とか書き云々。」

　ここで住吉区とあるが海岸部は分区により現在は住之江区になっている。

　筆者追加注「血沼（ちぬ）」は和泉の古称で「ちぬの海」といえば大阪湾一帯をいう。

二、同窓会名称「四極会」について

　母校大分大学経済学部の同窓会の名称「四極会」についての印象は堅苦しく一般には馴染みにくい。此の度ある本（参考文献①）に接したおかげで「四極会」の由緒を探る機運が生じた次第である。

　手始めに覗いた大学のＨＰ（ホームページ）の記載は次のとおり。

「四極会は、高崎山の古名である「四極山」にちなんで名づけられた。古代、高崎山は四極山と呼ばれており、開校記念歌の中にも「紫こむる四極山」と詠われていることからこの名前に決まった。又、万葉集にも「四極山（しはつやま）うち越え見れば笠縫の島漕ぎ隠る棚無し小船」作者高市連黒人　と歌われている。」

　右の如く話は簡単で開学の地・上野ヶ台から眺望する高崎山の古名から名づけたと明記されている。ついでに広辞苑では、高崎山は

「高崎山　大分市西端部、別府湾に臨む山。標高６２８メートル。野生ザルの生息地として知られ、瀬戸内海国立公園の一部をなす。」

とある。辞書によれば古名とは「今は使われない古い名　古称」とある。ＨＰでは、厳密な意味合いではなく、万葉の歌にもある古（いにしえ）の呼称としての表現であろう。

　以下は、万葉歌にある山の名が高崎山の古名となった経過について考えてみたい。

　高市連黒人は持統・文武時代の歌人なのでこの歌を詠んだのは七世紀末から八世紀初頭の頃で、万葉集編纂は奈良時代末頃とされている。万葉集の研究は鎌倉時代に始まり江戸時代に盛んになるので歌の知識はそれに連れてひろまって行く。四極山の名が九州・豊後の地に届くのはいつのことだったのか。また、その山を「四極山」と呼ぶ前は「高崎山」と呼ばれていたのだろうか。その後は両山名が併存したのか。考えれば疑問が

募る。こういうとどちらの名が先かを問題にしているようだが話の本筋は別のところにある。山の名に限らず、名は体を表す、という言葉があるように名は何らかの意味合いを持っている。山なら、普通は山の姿、立地条件、特産物、文化的遺産などに由来する名を持っているものである。高崎山は「高くて険しい山」の意でズバリ体を表した名前。しかるに四極山の場合は少し悩ましい。万葉歌の四極山は山とは言えぬほどに低い山だがなぜ険しい山の名に採用されたのか。ここから先は推測だが、一つには大阪の住吉の地以外に別の四極山が存在しておりそれに因んだケース。二つには山容の厳しさを四方極まれりとして「四極」の文字に着目したケース。「しはつ」の語源は浜の端の河口・岬など、行き止まりの意味。四極とは四方が峻険な山容の表現とも解釈できるが元歌とは違う意味合いに変化している。この可能性の方が高い気がする。

さて、当時の関係者が同窓会の名称を「四極会」としたのは、前述のHPでは開校記念歌の歌詞から採ったとある。単に万葉歌に詠まれた古名というだけで選ばれたとは思われず、きっと深い理由があるはずなのできっちりと忖度してみたいところだが漢字に疎く心もとない。「極」という字の意味の絞り込みが難しく、さらに「四」という数字が範囲を広くしているので混乱している。私は卒業以来同窓会とは無縁で定年後に同期生とのかかわりで関西四極会の総会に出席するようになったが、この年になって同窓会名について思いを致し幸せな思いもある。

最後に、当文を書くに際して当った資料は少なく、結果的にはほゞ推測の域を出ないことに終始したとの思いが強く、随想としたのはその辺の事情による。

参考文献

①中　九兵衛著「於吉奈我河考（息長川考）」
著者は江戸時代に新大和川開鑿を主催した大庄屋の子孫
②司馬遼太郎著「十六の話」中公文庫
十一話「大阪の原形」
―日本におけるもっとも庶民的な都市

還暦を迎えて

小野　輝彦
（大学二十九回）

7月、関西四極会報への投稿依頼をいただきました。還暦を迎えたことで白羽の矢がたったようですが、これといって披露できるようなとりえもない私でいいのかなと思いながら、紙面に空白を作るわけにはいかないので、拙い文章を見ていただくことにしました。

別府で生まれ育ち、別府鶴見ヶ丘高校の28回、大分大学では29回の卒業です。スポーツ歴は、野球、卓球、バスケット、空手、ゴルフ、ランニングですが、どれもものにならず、2年前にはハーフマラソンを走ったものの、今は勤務後に週2、3回トレーニングジムに通い、なんとか体力維持に努めています。

卒業後、国民金融公庫（政府系金融機関。現、日本政策金融公庫）に就職しましたが、最初の勤務が大分でしたので、25年間別府の実家住まいでした。

勤務歴は、大分を皮切りに、神戸、徳山、尼崎、長崎、福山、堺、高知、大阪、宇和島、そして神戸と、西日本ばかりですが現在で11か所目の勤務です。

政府系とはいえ金融機関ですので、色々どろどろとした経験もしました。ある保証人の不動産を仮差押したら、解除を求められて奥さんに土下座されました。裁判の法廷に立ちました、何度も。訪問したマンションに通されたらヤクザ屋さんでした、などなど。ですが、自分が融資審査した新規開業のお客さんの店が繁盛しているのを見たり、メインバンクが見放した企業を、サブバンクとともに再評価し、踏み込んで融資をした結果V字回復したりと、金融機関与信業務の醍醐味を経験しました。

なかでも忘れられないのは、尼崎時代に遭遇した阪神淡路大震災です。当時は融資金の返済相談を担当していたので、毎日来店、来電顧客の対応に追われ、2か月間は朝から晩まで仕事が続きました。大学の寮にいた娘が亡くなった話などテレビ、新聞で報道されている事件をじかに聞き、つらい経験もしました。土日も交代で出勤していたので、この時初めて7日間休みなしで勤務しました。家族は私の実家、別府に疎開させ、私は週2回くらい長蛇の列に並んで銭湯に行き、食事はほか弁が続く日々でした。そうした状況でしたが、お客さんは約束を守って来店したり、スーパー、コンビニを襲う事件など発生せず、巷間言われた「日本人の民意の高さ」を感じていました。

昨年4月の異動でラインをはずれ、今年2月には退職し、今は再雇用として勤務しています。これまでの経験から判断はできても、近年一層進化したパソコンシステムの操作についていけず、肩身の狭い思いをしていますが、とりあえず元支店長だとの周りの思いやりに助けられ、勤めています。

宇和島勤務時代には親父の介護で別府に何度も帰省し、今後のめどをつけましたが、単身赴任解消した昨年4月からは義母の介護問題で奮闘中です。まだまだ頭と体が動くうちは働こうと思っていますので、皆様とのネットワークを作り上げて、お付き合い出来ればいいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

クラブだより

サッカー部だより

河野　博文（大学二十二回）

サッカーＦＩＦＡワールドカップロシア大会は、フランスＦＲがクロアチアＨＲを破り20年振りの優勝でした。我が西野ジャパンＪＰは、アジア勢で唯一決勝トーナメントに進み、ベルギーを追い詰め大いに盛り上がりました。

さて、大分大学経済学部サッカー部は今年で創立70年になる伝統あるクラブです。

旦野原移転に伴い教育学部と一緒になり、その後工学部の学生も入り、現在は九州大学サッカーリーグ３部で２部昇格を目指して頑張っています。

我々旦野原世代のＯＢは現役の経済的支援とＯＢの懇親を目的とし、平成10年５月に『由布蹴友会』と銘打って、関東、関西、福岡、大分に各支部を立ち上げＯＢ活動を行っています。各支部で定期的に懇親会やゴルフコンペ、現役の支援、試合の応援を行う他、毎年７月の炎天下、旦野原の土のグランドに集まり、ＯＢと現役の試合を行い、夜は大分市内で懇親コンパをやり、その後都町に繰り出しジャングル公園辺りで昔話や近況報告に花を咲かせております。

数年前迄は未だ当時のスナックのママがいる店が有ったのですが、流石に昨今引退され、店は無くなり少し寂しくなりました。翌日は有志で由布と鶴見を一望できるゴルフ場のピッチでグリーン会話を楽しんでいます。

柔道部第四回ＯＢ会

～時間（とき）を超えて～

宮本　勝一（大学二十三回）

６年前に中部地区（瀬戸市）在住の大23回下田辰巳君の呼び掛けで発足した第４回大分大学柔道部ＯＢ会が晩秋の11月12日（土）13日（日）１泊２日の日程で神戸市内で開催されました。

昭和40年代中頃に旦野原キャンパスで共に汗を流した部員が約40年ぶりに参集したのが始まりです。主に九州各地の出身者が縁あって柔道場で、４年間の学生生活の一時期を若き肉体を全力でぶつけ合った先輩後輩ＯＢ諸氏は故郷を離れ、新天地を安住の地としている者も少なくありません。

明石大橋遠望

公式の大分大学柔道部ＯＢ会帯会は年１回お盆時期に旦野原キャンパス道場で現役部員と交流していますが、故郷が大分県外のＯＢが集まるのは難しいことでした。

たまたま、関西地区に同年代を過ごした４名がいたことで東は東京、中部地区から西は九州地区のほぼ真ん中に位置する関西地区を会場にすることに決定し、２年に１度晩秋時期の開催に至ったものです。

今回も明石大橋の袂にある神戸ビラホテルでカラオケで盛り上がり、翌日は有馬温泉につかり大いに英気を養い、親睦を深めました。特に東京・大分の遠方からは夫婦で参加し楽しい旅行を満喫した様子でした。

２年後の再会を約束して１泊２日のＯＢ会を散会しました。

ホテル内集合写真

結成十一年、活動の場は同窓会、結婚式、地域コミュニティ、介護施設等

ボランティア演奏77回

フレット来夢（マンドリンクラブ関西ＯＢ）

２００７年11月、経済学部13回生同期会での演奏をきっかけに、ボランティア活動を始めてまる十一年。お得意さんは関西四極会総会とグループホーム三件。それに加えて毎年数件の依頼があります。

関西四極会会員の紹介で奈良、京都、神戸でマンションの親睦行事、障害者施設や老人ホームのコンサート、高齢者の食事会等に呼ばれたこともあります。

初めての公演は京都の老人介護施設。利用者さんや家族の方から感謝の言葉を頂きました。

演奏後、車椅子の男性が私たちの所へやってきました。聞けば脳溢血で言葉を発することのできない奥さんが、演奏に感激して涙を流したとのこと。思いがけない感情の吐露に感無量の様子。忘れられない思い出です。

グループホームの入居者は、程度の違いはあれほぼ全員が認知症の患者です。時々施設を抜け出して徘徊する人もあるとか。外からはうかがい知れないご苦労がおありのようです。

ある施設では、タンゴの名曲「ラ・クンパルシータ」がお気に入りの女性がいました。訪問のつどご希望に応えてこの曲を演奏しましたが、そのうち寝たきりになり、ベッドでドア越しに聴いていただくようになりました。

また、私たちの演奏のお返しに、昭和13年のヒット曲「満州娘」（私十六満州娘～王さん待ってて頂戴ね♪）を毎回少女のような声で歌っていただいた女性もありましたが、お二人とも間もなくお見かけしなくなりました。毎年少しずつ入居者の入れ替わりがあるようです。

ボランティア演奏77回目の昨年10月20日、別府鶴見丘高等学校の第34回関西鶴嶺会総会に出演しました。この高校からは大分大学に毎年たくさんの入学者があり、マンドリンクラブにもほぼ毎年入部者がありました。総会参加者は約40名。会場は天満橋、大阪キャッスルホテルの中華レストラン「錦城閣」です。

演奏曲は第一部「二人の天使」「愛燦燦」「川の流れのように」「ラデツキー行進曲」第二部は「校歌」「応援歌」を歌い会場は大盛り上がり。大きな拍手をいただき、アンコールは「高校三年生」。あの頃の気分に戻り大はしゃぎ。お開きとなりました。

その後、関西鶴嶺会会長から次のようなメッセージが届きました。「同世代の皆さんのおかげで大いに盛り上がりました。楽しい良い同窓会だったと参加の皆さんも喜んでくれましたよ。ありがとう。」来年も呼んで下さい。

ところで、年とともにメンバーも高齢化し、いつまで続けられるかという課題に直面しています。そこで機能の衰えを少しでも食い止めようと二年前から「機能向上委員会」と銘打って月1回は練習抜きで芸能鑑賞、研修会、おしゃべり等を楽しんでいます。

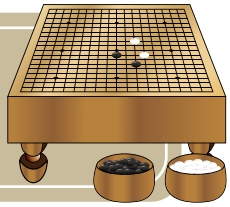
これまで天満天神繁昌亭、神戸新開地の喜楽館、神戸港クルーズ等を楽しんだほか、ソムリエの資格を持つメンバーの真継忠氏（サントリーＯＢ）を講師にワイン講座を開設。ワインの歴史、種類、製法、産地、味わい方等の詳細な解説に、ふむふむとうなづきながら、お待ちかねのワイン試飲に。昼間から上質のワイン数種類をゆっくりと飲み比べながら上品に酔うのもいいものです。心がとろけます。

最後に、ボランティア演奏は私たちの腕試しでもあり、練習の成果を発表する貴重な機会でもあります。私たちの年間スケジュールには、なお「ジャッカンの余裕」があります。お呼びくだされればどこへでも参ります。お気軽に声をかけてください。

（執筆）
教育学部卒　坂本加代子
大二十回　津志田総穂

囲碁部　活動報告

小川　清一郎（大学 15 回）



1　新春囲碁大会（平成 30 年 1 月 27 日　於　中電倶楽部）参加者 7 名

各人の持ち点によるハンディ戦でそれぞれ 3 局ずつ対局、 持ち点 272 点の古田智則さん（大 22 回）が第 1 位、持ち点 282 点でハンディ頭の大村龍興さん（大 11 回）が 2 位となりました。

2　夏季囲碁大会（平成 30 年 7 月 28 日　於　囲碁せきとば）

参加者 7 名

各人持ち点によるハンディ戦で 3 局ずつ対局。今回もハンディ上位者が強く、第 1 位は大村龍興さん（大 11 回）、第 2 位は加藤皓以さん（大 11 回）でした。

表彰式･懇親会は天神橋商店街の中国料理「大陸風」で開催、熱戦を振り返り、楽しいひと時となりました。

3　関西四極会・瓊林会　第 5 回囲碁交流戦

（平成 30 年 10 月 20 日　於　中電倶楽部）

関西四極会が当番幹事で開催。関西四極会 7 名、瓊林会 6 名が参加し合計 18 局の熱戦が繰り広げられました。結果は　勝ち数それぞれ 9 局で引き分けとなりました。

懇親会は「梅田がんこ」でお互いの健闘を称えあい来年の対局を誓って散会しました。

（加藤名誉会長から八鹿酒造の焼酎をご寄贈いただき、各チーム 3 名を敢闘賞として表彰）

関西四極会の参加者 7 名は次のとおりです。

大村龍興（大 11 回）菊池正男（大 12 回）

猿渡信正（大 12 回）橋口英久（大 13 回）

村田良一（大 15 回）小川清一郎（大 15 回）

和田安生（大 24 回）

4　月例会（インストラクター指導対局）

年間 8 回の例会（ 3、 4、 5、 6、 9、10、11、12 月）は 10 月が休会となりましたが、年間スケジュールに沿って進めています。然しながら、会員の高齢化・体調不良等で参加者が急減、もう一度体制を立て直せるかの岐路に来ています。

現有の会員およびインストラクターと相談しながら早急に対応していきたいと考えています

来たれ！　囲碁人？

囲碁に関心のある方のご入会をお待ちしています !!!

ゴルフ部　活動報告

長谷川　浩二（大学 17 回）

1．第 38 回懇親ゴルフ大会

【開催日】　平成30年６月23日(土)　天候 晴天　　【場　所】　関西クラシックゴルフ倶楽部
【参加者】　13 名（４組）

【成績】	氏　名		清水	大洞	グロス	HDCP	NET
	優勝	水野　　豊（大 26）	45	49	94	20.4	73.6
	２位	松田洋三郎（大 12）	49	51	100	26.4	73.6
	３位	野中　千尋（大 21）	43	44	87	13.2	73.8
	ベストグロス	長谷川浩二（大 17）	41	46	87		

梅雨時期で雨の心配をしていましたが絶好のゴルフ日和の中、熱戦が繰り広げられました。コンペ直前に足腰の不具合等で急遽欠席があり参加者がやや寂しい 13 人となりました。

優勝は仕事の関係で日程の調整がつかず久々の参加の水野さん。ゴルフの回数も多く安定していました。ハンディ差で優勝を逃した松田さんは粘りのゴルフです。３位はこのコースのカップの位置を決めているらしい野中さん。ベスグロは野中さん、長谷川でした。

鍵本さん、大石会長、後藤さん、水野さん（２個）がバーディをとりました。

表彰式では加藤会長からのボール、酒、焼酎と盛り沢山の賞品を頂き賑やいました。

参加者：加藤会長、松田、宇都宮、鍵本、米田、野中、大石、水野、松尾、後藤、小俣（初参加）、佐藤、長谷川

2．第 39 回懇親ゴルフ大会

【開催日】　平成30年11月15日(木)　天候 晴天　　【場　所】　関西クラシックゴルフ倶楽部
【参加者】　11 名（３組）

【成績】	氏　名		大洞	湯谷	グロス	HDCP	NET
	優勝	鍵本　　明（大 17）	49	55	104	28.8	75.2
	２位	長谷川浩二（大 17）	46	42	88	12.0	76.0
	３位	野中　千尋（大 21）	46	46	92	13.2	78.8
	ベストグロス	長谷川浩二（大 17）	46	42	88		

直前にやむなき理由で２名が欠席となり茲許のゴルフ会では最も少ない参加でした。

それでも秋晴の清々しい天気のなか、紅葉を見ながら和気藹々のプレーとなりました。

グリーンが難しく３パットが続出しスコアを乱した人が多かったようでした。

優勝はニアピン２個とアイアンの切れ味が鋭くハンディにも恵まれた鍵本さん。２位は福田さんと飛ばしあいを競いベスグロ能力長谷川、３位は前回に引き続きコースを熟知している野中さん。今回は特別に優勝者に焼酎「魔王」の提供が加藤会長からあり鍵本さんは大喜びでした。

特筆すべきは加藤会長が常に最初に打った第一組はハーフを２時間以内で廻りゴルフ場の方も驚いていました。加藤会長の構えたらすぐに打つという姿勢を学びました。

参加者：加藤会長、東方、小川、鍵本、米田、野中、河野、宮本、福田、田﨑、長谷川

四極の風の会　活動報告

京都・南禅寺周辺と梨木神社を訪ねて

―故田代友二郎君を偲ぶ散策会―

利光　征四郎（大学十一回）

去る九月四日、四国に上陸して関西を縦断した台風二十一号は強風と高潮で大被害をもたらしたが、「四極の風の会」にも九月十八日に予定していた散策会のプランの見直しというハプニングをもたらした。原因は京都・東山の原生林の中を通る散策コースが台風の影響による倒木で入山禁止となり、目的地の一つにしていた将軍塚に行けなくなってしまったことによる。

ルート変更点は東山に登らずに南禅寺界隈を散策するということで、随分と省エネの内容になっている。因みに、ここでの南禅寺界隈とは、一般的には「東山別荘群」と呼ばれているエリアを指している。

ところで、「四極の風の会」は今年六月、当会の創立以来リーダーとして、およそ十五年間会員の皆さんを引っ張ってきた田代友二郎君を失うというスーパー台嵐に見舞われていた。同君は元来健康に恵まれ、当散策会参加は勿論のこと、全国の国宝巡りや地元のウォーキングクラブ指導員を務めるなどの活動家だったが、一昨年来、体調不良を自覚して熟慮の末に昨年六月に入院・手術を受け治療に専念、その後順調に回復して散策会にも参加するなど会の運営に注力し、本人はもとより周囲もすっかり安心していたが青天の霹靂とでもいうのか、体調を崩し六月二十五日に急逝したのである。会のリーダーであり、かつ、長年の友としてかけがえのない人を失った寂しさと無念さをしばらくのあいだ引きずっていたものの、同期生の藤丸、湯浅両君に相談しながら今するべきことは計画に従って散策会を継続することと踏ん切りをつけ、同君を偲ぶ会として会員の皆さんに案内して当散策会開催に至った次第（参加者は十三名）。当散策会は今回で四十回を数えるが、京都の地は十三回目で故田代君の当地への愛着が窺われる。南禅寺周辺には二回訪れており、お目当ては南禅寺、各塔頭の庭園、水路閣などだった。

九月十八日は久しぶりの好天、やや気温が高いが快適なウォーク日和。当日の訪問地が同君を偲ぶよすがになれば、との思いを頭の隅に置きながら辿ったコース順は次の通り。

地下鉄東西線蹴上駅の上はインクラインといってレールを敷いて台車で荷物を引き上げる施設。明治期に琵琶湖疏水開通による水運の活用を目的に構築され、今はメモリアル施設。駅を出てインクラインを潜るトンネルを抜けるとすぐに別荘群エリアに入る。

インクラインを経てすぐの別荘は、南禅寺塔頭金地院の南に二邸（何有荘、智水園）。塔頭の間を抜けて南禅寺三門前の通りを北へ上がると三邸（碧雲荘、清流亭、怡園）。白川通りに出ると三邸（流響院、洛翠（旧織宝苑）、真々庵）。南禅寺参道に沿って三邸（旅館八千代、旅館菊水、対龍山荘）。仁王門通りを越えて西に一邸（無鄰菴―一般公開中　当会で入園歴あり）。途中で南禅寺に立ち寄り、故田代君の冥福を祈る。

無鄰菴から疏水沿いに西へ北へ、また西と歩いて賀茂川べりに出て堤防で昼食。折からの陽光もとで楽しいひと時を過ごす。

午後二時に出発、京都御苑の中を通って梨木（なしのき）神社まで散策。場所は、御苑・京都迎賓館の東側にあり公家三条家の御屋敷跡。創建は明治十八年と新しく、明治維新に貢献した三条實萬を祀る。京都三名水の一つ「染井の水」と、約五百株の萩で有名（別名「萩の宮」）。水は飲料水で水汲みの人が訪れる。九月十六日に萩祭りが催され、花の寂しい時期ということもあって今回行く先に選んだが、少し早く花は今一つの感あり。社殿の辺りは落ち着いた雰囲気で萩の花が見頃の折はきっと風情もひとしお。

尚、隣の御苑は、故田代君との思い出が深い所。数年前に京都大宮御所、仙洞御所に彼の申し込みに便乗して会員仲間と一緒に訪れた記憶がよみがえった。

神社参拝を三十分ほどで終えて京阪電車出町柳駅まで歩いて解散。帰りの電車の中で何か物足りなさを感じ、少し考えてその理由が田代君のいつもの毒舌を聞けなかったせいだと気づき、そして、今日のウォークを彼なら何点というだろうかと自問したことだった。

台風二十一号の爪跡が残る中、急なコース変更にもかかわらず無事に行程を終えることが出来て参加の皆さんのご協力に厚く感謝。

平成三十年十月

H30・9・18　四極の風の会散策会
南禅寺別荘群　旅館八千代前にて

たより

（順不同）

高商十九回　岡本　治夫
満95歳になりました。
四極会の益々の発展を祈ります。

高商十九回　香西　俊雄
ご盛会をお祈り申し上げます。

経専二十四回　藤田　利男
いつもお世話になりありがとうございます。

経専二十六回　塩月　玄巳
2年前にヘルニア発症術後只今介護施設入所中でございます。

経専二十六回　二宮　憲夫
腰痛のため欠席致します。

経専二十六回　細田　泰嗣
88歳の米寿になりました。オマケの人生ですがもう少し頑張ります。

経専二十七回　川崎　和
本年も体調不良の為欠席致します。ご盛会を祈ります。

経専二十七回　河野　正道
元気にしておりますが、老人会会長を今年も続けます。多忙につき出席は未定です。盛会を祈ります！

大学三回　岩田泰次郎
ご盛会を祈念いたします。

大学八回　大橋　伸吉
ご案内ありがとうございます。体調思わしくなく欠席します。次の会報を楽しみにしてます。

大学九回　染矢　剛
ご盛会をお祈りします。

大学十回　河江　智
いつもお世話になりありがとうございます。２０１８年1月11日より、転居いたしました。よろしくお願いします。4月22日の総会には出席いたします。

大学十回　高森　鳴実
幹事の方々、お世話頂き御苦労様です。

大学十回　中山　克彌
腰痛（椎間板ヘルニア）等で悩んでいます。回復したら考えます。

大学十回　広畑　孝行
前立腺ガンの抗ガン剤の副作用が激しく、体調不良の為欠席予定でしたが、変更して参加します。

大学十回　松本　孝雄
ご盛会を祈ります。

大学十回　吉田　吉則
盛会を祈願します。

大学十一回　佐藤　克巳
相変わらず、体調不良が続いており遠出が出来ません。
ご盛会をお祈り致しています。

大学十一回　髙山　明之
残念ですが、闘病中につき欠席致します。

大学十一回　湯浅　喬
今回は残念ながら、所用の為参加出来ません。皆様の元気な顔が見られず残念です。

大学十二回　安部　登
通院治療中です。よろしくお願いします。

大学十二回　岩崎　正義
当日他用のため出席できません。よろしくお願いします。

大学十二回　内山　博之
一年一年が益々早い感じがします。それ故に肉体も追いつかなくなってるようで、最近外出にチューチョする程になって口惜しい思いの日々です。従って残念乍ら今回も失礼致します。
ご盛会を祈ります。

大学十二回　土屋　義方
先約があります。
ご盛会を祈ります。

大学十二回　原　尚
幹事殿、いつも大変お世話になります。事情により欠席させて頂きますので悪しからず御勘案願います。

大学十二回　松田洋三郎
会社ＯＢ会と重複のため、欠席させて下さい。
元気で週４日出勤を続けています。

大学十三回　木ノ下憲二
大石会長始め新役員の方々のご奮斗に感謝申し上げます。
関西四極会報（第22号）に掲載の松本英樹さんの「お国訛り」を楽しく読ませてもらいました。松本さんのお人柄が滲んで傑作文と思います。

大学十三回　柴垣　俊三
申し訳ありません。家族旅行を予定しています。

大学十三回　橋口　英久
特に変わりなし。

大学十三回　三浦　征洋
当日所用があり申し訳ありません。

大学十三回　溝口　繁雄
ご盛会を祈念致します。

大学十三回　山下　隆士
関西四極会のご盛会を祈念いたしております。

大学十四回　古賀　裕敏
昨年2月と6月に手術をしました関係で今年6月迄はリハビリ中ですので残念ですが今年の総会は欠席させていただきます。関西四極会の益々のご発展を祈念しています。

大学十五回　東方　匡輔
本年も、元気な皆様方との再会を楽しみにしています。

大学十五回　小川清一郎
関西四極会報（第22号）楽しく拝読しました。
厳冬を乗り越えて4月総会に出席できるよう体調管理に努めていきます。

大学十五回　小野　仁彦
腰の具合が悪くリハビリ中です。盛会を祈ってます。

大学十五回　東　賢次
・同期（15会（イチゴ））の会も盛んです。
・硬式テニス部ＯＢ会は大分も含め全て参加。（テニスはぼちぼち：昔は強かったですが）

大学十六回　加藤　剛

健康留意
散歩励行
元気にすごしています。

大学十七回　有馬　敏則

総会準備、御苦労様です。当日皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

大学十七回　野村　建

関西四極会では大変お世話になっています。
大十七回の皆さんによろしくお伝えください。

大学十七回　長谷川浩二

元気な間は皆様の顔を見る為に必ず出席します。いつも楽しみにしています。

大学十九回　大谷　眞二

昨年末サラリーマンを卒業しました。毎年ながら、外せない団体総会と重なっています。
来年度以降は出席出来るかと思います。

大学十九回　真継　忠

当日はマンドリン演奏に参加します。

大学二十回　阿部　修

総会当日は、私の住居の団地自治会の定期総会と重なり、今年組長当番で出席の為関西四極会総会へは出席できません。残念ですが、皆様によろしくお伝えください。
元気で地元の公民館・日赤奉仕団活動で頑張っています。

大学二十回　児島　孝利

母が、体調不良のため、欠席します。
ご盛会をお祈り申し上げます。

大学二十回　中倉　義介

都合により出席出来なくて残念です。

大学二十回　藤村　光男

依然北九州（実家）にて母親（93歳）の面倒見で単身帰省中。まだまだ関西には戻れそうにありません。東九州道開通したとは言え、大分はなかなか遠いものです。

大学二十一回　安部　正則

当日旅行と重なり出席できません。
盛会をお祈りいたします。

大学二十一回　井﨑　賢二

NPO活動（成年後見人）で結構忙しくしております。
再会を楽しみにしております。

大学二十一回　野中　千尋

配偶者、野中正子（48年教育学部卒卓球部）も参加させて頂きます。宜しくお願いします。

大学二十一回　山崎　清太

21回生の皆様お元気ですか？残念ながら出席できません。親の介護で帰省中です。御盛会を祈ります。

大学二十一回　吉村鉄太郎

よろしくお願いします。

大学二十二回　泉　博二

「関西四極会」は会長はじめ幹事の皆さんのお陰で益々の充実でありがとうございます。

大学二十二回　大塚　哲生

リハビリ中です。

大学二十二回　大石　哲史

宜しくお願いします。

大学二十二回　河野　博文

今年は、100周年記念事業準備委員会より、サッカー部後輩の玉井理事が参加されるとの事で楽しみにしております。

大学二十三回　石橋　英行

同窓会に出席するのを楽しみにしておりましたが丁度その日に、別の用件が出てきました。いろいろと悩みましたが結局、同窓会を欠席することになりました。

大学二十三回　工藤　俊彰

平野さんいつもお誘い頂いておりますが申し訳ありません。

大学二十三回　栗崎　実

四極会の御盛況を祈念致します。

大学二十三回　新西　文仁

あっという間に65歳です。一日一日を心新たに大切にしたいと思います。

大学二十三回　平野　和彦

昨年3月末に退職し、毎日、忙しく楽しんでいます。

大学二十六回　水野　豊

当日先約（トラック協会支部役員研修会）があり、出席できません。
申し訳ございません。

大学二十八回　児玉　幸寿

初参加です。
よろしくお願い致します。

大学二十九回　江口　雅晴

申し訳ございません。
海外出張中です。

大学三十三回　佐藤　浩己

当日、よろしくお願いします。

大学三十四回　増山　博通

今年も子供のＹＭＣＡの行事と重なり、誠に申し訳ありません。盛会をお祈り申し上げます。

大学三十八回　山田　泰浩

御盛会を祈念致します。
今回、所用にて失礼致します。

大学四十一回　松田　淳

申し訳ございません。先約が入っており欠席させていただきます。（年会費すみません。銀行振込みかコンビニが利用出来ると嬉しいです。なかなか郵便局に行けず）

平成 30年度会費納入者名簿（敬称略）

平成 30年11月30日現在

氏　名	卒業	氏　名	卒業	氏　名	卒業	氏　名	卒業
松田　克己	高 18	故田代友二郎	大 11	後藤　克己	大 17	新西　文仁	大 23
岡本　治夫	高 19	利根　善美	大 11	坂本　　直	大 17	進来　英治	大 23
香西　俊雄	高 19	利光征四郎	大 11	田川　幸雄	大 17	平野　和彦	大 23
奈良定諄一	高 19	長岡　泰彦	大 11	時枝　信康	大 17	福田　　誠	大 23
松久　　博	経 22	原　　光伴	大 11	野村　　建	大 17	宮本　勝一	大 23
佐野　啓二	経 24	藤丸　靖夫	大 11	長谷川浩二	大 17	小玉　　稔	大 24
瀬戸　潤一	経 24	湯浅　　喬	大 11	松尾　秀人	大 17	佐村　悟次	大 24
藤田　利男	経 24	安部　　登	大 12	米田　民雄	大 17	和田　安生	大 24
二宮　憲夫	経 26	阿部　　浩	大 12	高橋　聡子	大 18	佐村　信哉	大 26
細田　泰嗣	経 26	岩崎　正義	大 12	羽矢　寧典	大 18	松尾　　信	大 26
川崎　　和	経 27	内山　博之	大 12	真部　誠司	大 18	水野　　豊	大 26
河野　正道	経 27	菊池　正男	大 12	三谷　　博	大 18	山田　安伸	大 26
牛島　恒夫	大 1	猿渡　信正	大 12	矢野　眞治	大 18	小俣　秀記	大 27
荒木　　聡	大 2	武下　孝治	大 12	大谷　眞二	大 19	後藤　　寛	大 27
恩賀　幹雄	大 3	土屋　義方	大 12	真継　　忠	大 19	児玉　幸寿	大 28
片山　　公	大 4	原　　尚	大 12	阿部　　修	大 20	満見　　毅	大 28
高橋　　前	大 4	松田洋三郎	大 12	北村　保成	大 20	小野　輝彦	大 29
小野　三夫	大 6	三浦　英樹	大 12	河内　正志	大 20	佐藤　敏明	大 30
垣本　和範	大 6	木ノ下憲二	大 13	児島　孝利	大 20	尾崎　貞和	大 31
児玉　一朗	大 6	古賀　義人	大 13	津志田総穂	大 20	松永　秀隆	大 31
石尾　雄幸	大 7	是永　哲一	大 13	中倉　義介	大 20	田崎　隆徳	大 32
古賀　和弘	大 7	柴垣　俊三	大 13	中島　正博	大 20	池田　　浩	大 33
大橋　伸吉	大 8	橋口　英久	大 13	野瀬俊一郎	大 20	吉良　文生	大 33
岡田　昌也	大 8	比嘉　賀昌	大 13	平口　義一	大 20	佐藤　浩己	大 33
高見　末雄	大 8	三浦　征洋	大 13	藤村　光男	大 20	今石　義人	大 34
浅野　信一	大 9	溝口　繁雄	大 13	古野　美歳	大 20	大脇　藤人	大 34
有村　良三	大 9	山下　隆士	大 13	山岡　広和	大 20	西村　　章	大 34
梶田　東雄	大 9	川西　輝明	大 14	安部　正則	大 21	坊垣　　巖	大 39
木本　尚之	大 9	古賀　裕敏	大 14	井崎　賢二	大 21	小野　正輝	大 40
小西敬一郎	大 9	堤　　眞洋	大 14	甲斐　誠三	大 21	小林以久恵	大 40
坂本　哲男	大 9	東方　匡輔	大 15	河崎　照行	大 21	前田　尚子	大 41
染矢　　剛	大 9	小川清一郎	大 15	木村　政臣	大 21	松田　　淳	大 41
髙田　利雄	大 9	小野　仁彦	大 15	野中　千尋	大 21	奥　竜一郎	大 42
橋本　　彰	大 9	佐々木武男	大 15	山崎　清太	大 21	神澤　　進	大 54
森　　信孝	大 9	橋本　永爾	大 15	山本　良一	大 21	葛原　美咲	大 57
山本　　治	大 9	東　　賢次	大 15	吉村鉄太郎	大 21		
梅木騏八郎	大 10	松本　英樹	大 15	泉　　博二	大 22	高　商	計　4 名
衛藤　慎吾	大 10	村田　良一	大 15	井上　龍生	大 22	経　専	計　8 名
河江　　智	大 10	山口　紘治	大 15	今仁　正義	大 22	大 1 ～ 10	計 31 名
高森　鳴實	大 10	畔津　俊郎	大 16	大石　哲史	大 22	大 11 ～ 20	計 80 名
日野　武雄	大 10	加藤　　剛	大 16	河野　博文	大 22	大 21 ～ 30	計 39 名
広畑　孝行	大 10	杉浦　三郎	大 16	坂本　　温	大 22	大 31 ～ 40	計 12 名
吉田　吉則	大 10	寺岡　和雄	大 16	辻　　次郎	大 22	大 41 ～ 50	計　3 名
安部　亮一	大 11	有馬　敏則	大 17	藤野　敬三	大 22	大 51 ～ 60	計　2 名
大村　龍興	大 11	安藤　　清	大 17	古田　智則	大 22	大 61 ～	計　0 名
加藤　皓以	大 11	宇都宮　護	大 17	石橋　英行	大 23	総　計	179 名
佐藤　克巳	大 11	鍵本　　明	大 17	神本　信正	大 23		
髙山　明之	大 11	清松　壮生	大 17	栗崎　　実	大 23		

会費納入ありがとうございました。31 年度もよろしくお願いいたします。

粘着テープ・各種機能性フィルムの打抜加工・販売
KATO SEIKO

取締役会長 加 藤 皓 以（大学 11 回）

株式会社 カトー精工

＜本社＞ 〒566-0045 大阪府摂津市南別府町8番40号
TEL.06-6349-9120(代) FAX.06-6349-9121

＜国内＞相模原事業所・名古屋事業所・福岡事業所・仙台営業所

＜中国＞天津加藤精密電子有限公司・東莞加藤精密電子有限公司・蘇州加藤精密電子有限公司

＜香港＞香港加藤精電公司

Fukuhara
一般区域貨物運送事業
機械器具設置業・鳶土工業

代表取締役 水 野 豊
大学26回 和田ゼミ 軟庭

Y.F 福原運輸株式会社
〒556-0022 大阪市浪速区桜川２丁目11番31号
TEL(06)6562-7377 FAX(06)6561-5693

編集後記

関西四極会報も年数を重ねて本号で第23号、平成最後の発刊となりました。ご投稿いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。年1回の発行ではありますが、関西四極会員相互の情報発信ツールの一つとして、少しずつでもより多くの方にご登場いただけるようなものにしていければと思っています。同期・クラブの集まり、趣味、旅行、随筆、古希、還暦等を迎えられた方など気軽にご投稿ください。どうか今後とも会員各位のご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

（大学二十二回 辻 次郎）

http://www.kansai-shiwasukai.club/